

第5章 地区別計画

地区別計画とは、計画期間である令和3年度から令和8年度に各地区で優先して取り組むべき重点目標などを示したもので、市内6地区（新川地区・中央地区・大浜地区・棚尾地区・旭地区・西端地区）で2回実施した地域福祉推進会議での協議のもと策定しました。

地域福祉推進会議には各地区の代表者（連絡委員、老人クラブ、民生委員児童委員、子ども会役員等）が参加し、地区ごとの重点目標や具体的な取り組みのアイデアについてワークショップ形式で話し合いを行いました。

地域福祉推進会議とは？

地域福祉推進会議は、平成27年度に第2次碧南市地域福祉計画の策定にあたり、“地域の出来事を自分事として考える”をテーマに地域福祉の課題や特性を共有し、地域住民が主体的に解決策を検討することを狙いとして地域福祉懇談会を開催したことをきっかけに、以降毎年市内6地区で年に2回程度開催しています。

地域福祉推進会議では、各地区の代表者（連絡委員、老人クラブ、民生委員児童委員、PTA、子ども会役員、青少年育成推進員等）や地域住民とともに地域の課題に対する検討を重ね、近年では多世代交流の機会や地域のつながりづくり、地域での見守りなど各地区の特色を活かした具体的な活動が展開されつつあります。

これまで行われた主な活動



地域の交流活動
(新川地区)



地域の交流活動
(大浜地区)



地域の交流活動
(中央地区)

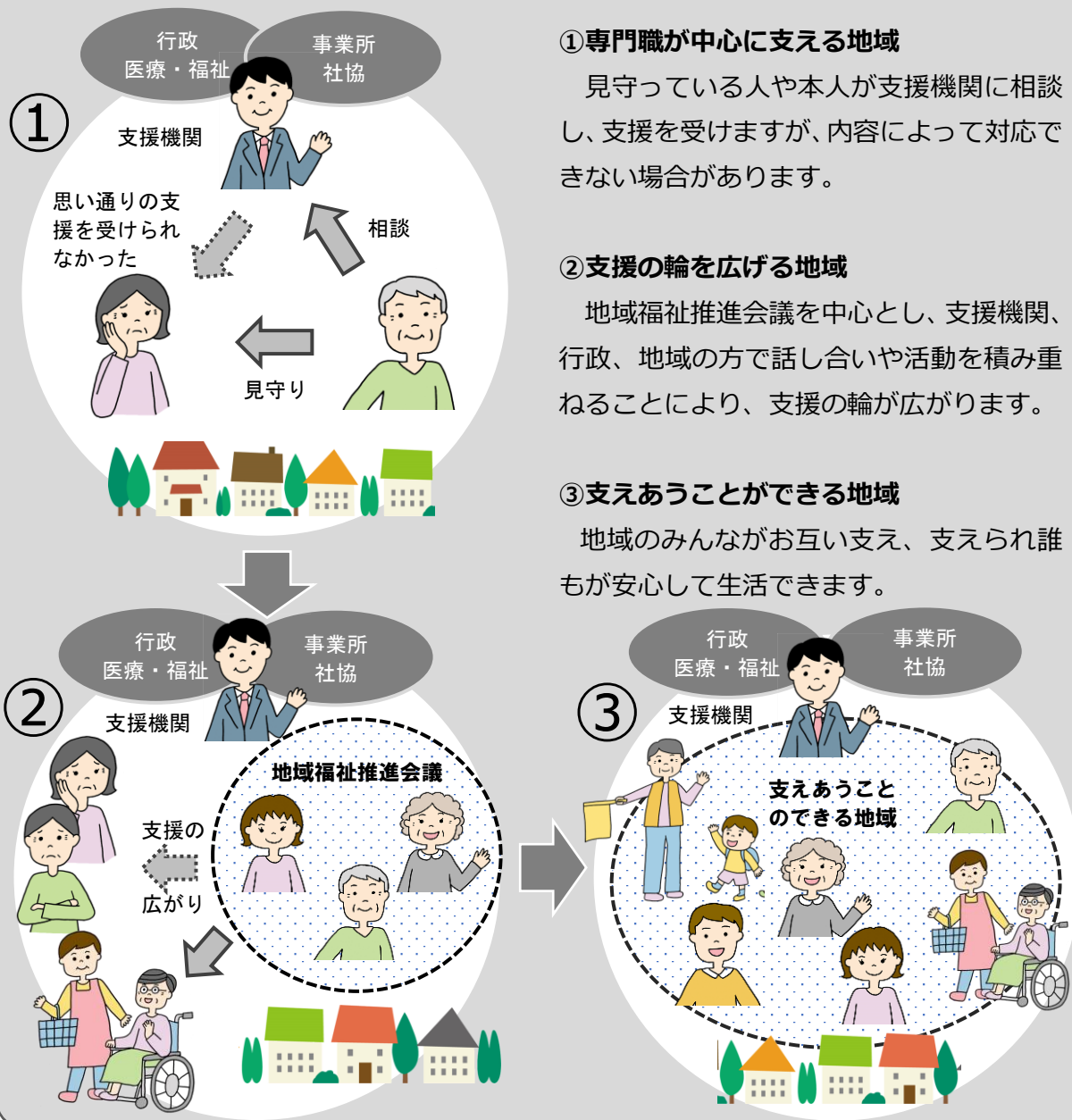
今後は、64ページ以降に定めた重点目標について優先的に取り組み、地域や福祉を身近なものとして考える福祉教育の機会として、また地域で活動する様々な個人、団体の交流の場として開催し、課題を抱えている人や世帯に気づき、お互いに支え合うことのできる地域づくりを目指します。

～地域での思いやり支えあいストーリー～

あるところに1人で暮らしているAさんがいました。Aさんは食事の材料の買い出しが大変になってきたため、地域の人からAさんを心配する相談が入り、相談機関、行政、地域の人も含め地域福祉推進会議で一緒に考え、近所の人から車で買い物に行く際にAさんも一緒に連れて行ってもらえることになりました。気にかけてくれる人との関わりが増え、生活に張りも出ました。

この取り組みを続ける中で、他にも同じように困っている人がいること、ちょっとした支え合いがあれば地域で暮らせることに気づき、このような支えあいの活動が創り出され、将来自分たちが同じように困った時にも安心できる地域に変容してきました。

地域共生社会の実現に向けた“支えあうことのできる地域づくり”



新川地区



データ・アンケートからみる状況

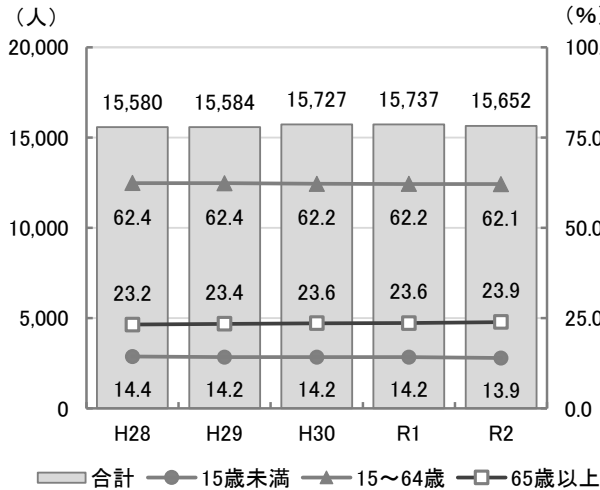
新川地区の総人口は令和元年度までは増加していましたが、令和2年度では減少に転じ、15,652人となっています。

他の地区と比較すると、総人口は旭地区、大浜地区に次いで多く、高齢化率は市全体よりやや高くなっています。

近所付き合いの程度は、市全体と比較して「立ち話をする程度」が高くなっています。

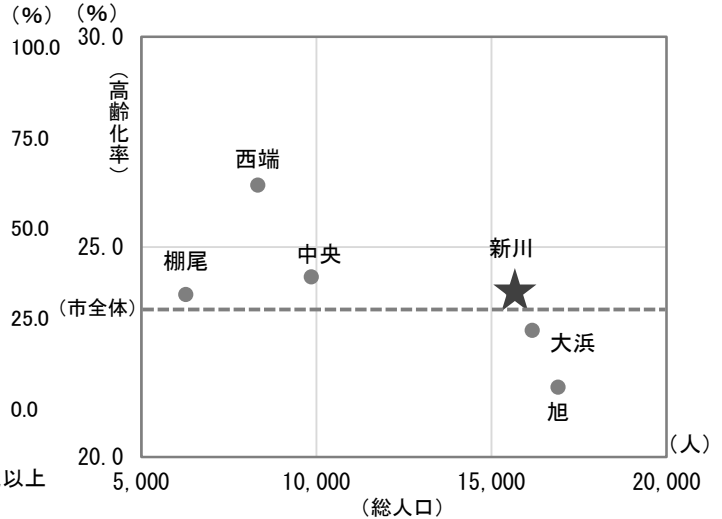
支え合う地域づくりのため地域ですべきことは「近所の住民同士の普段からのつきあい」が最も高く、市全体と比較しても高くなっています。

■総人口・年齢3区分別人口割合の推移



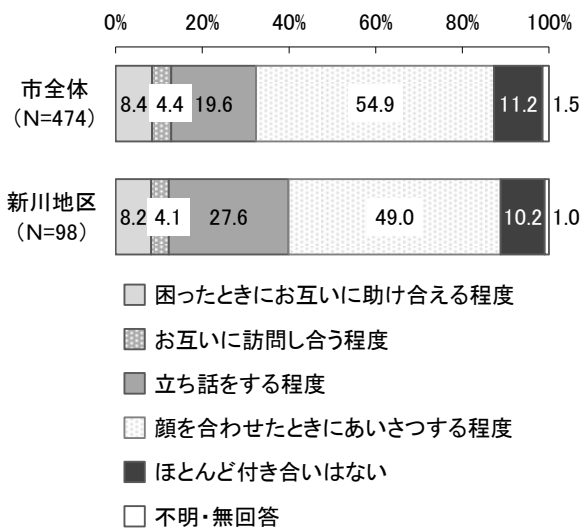
資料：市民課（各年度4月1日）

■他の地区との総人口・高齢化率の比較

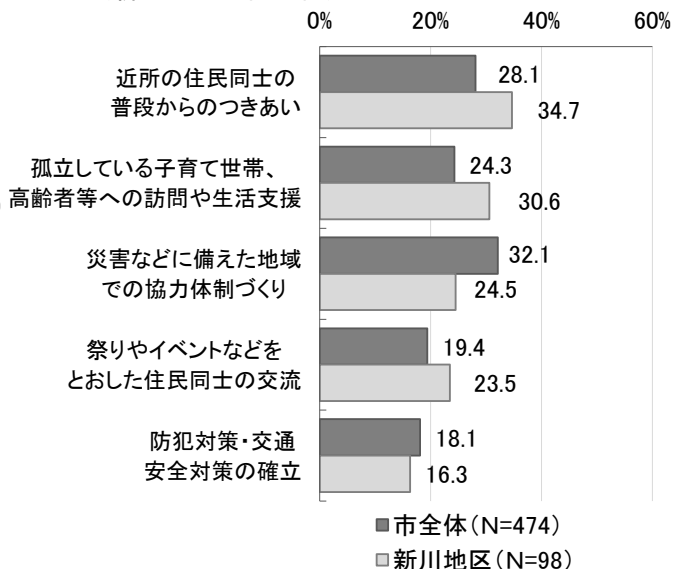


資料：市民課（令和2年4月1日）

■近所付き合いの程度



■支え合う地域づくりのため地域ですべきこと (新川地区上位5位)



これまでの地区での活動と地域福祉推進会議での主な意見

「住民同士のつながりが少なくなっている」という課題に対し、多世代交流の取り組みを行ってきました。現在では、いつでも、気軽に、継続してできる取り組みとして、あいさつ運動を企画しています。

地域福祉推進会議では、住民同士のつながりが深まれば、地区にまとまりができ、あいさつや困っている方への声掛けがさりげなくできる関係ができること、また、“ふくし”を身近なこととして捉え、“ふくし”について考える人が増え、地域福祉が広まっていくとよいとの意見が出ました。



重点目標と今後の取り組み案

重点目標 “ふくし”への関心を持とう！

“福祉”という具体的なイメージがわきづらく、「自分とは関係ない」と考えてしまいます。しかし、“福祉”とは、“ふだんの 暮らしの しあわせ”のことです。そして、その主人公は“わたし”です。みんながしあわせになれるよう、“ふだんの 暮らしの しあわせ”について、関心を持ち、考えていけるように取り組んでいきます。

重点目標 子どもや地域の方すべてに安全な暮らしを！

地域に住む子どもたちをはじめ、住民みんなが安心・安全に暮らしていくため、あいさつ運動を行います。住民同士が気軽に声をかけ合える“顔なじみ”の関係をつくることで、いざという時にも助け合えるまちづくりを目指します。

＼ こんなことをやっていきます！ ／

- “ふくし”（ふだんの 暮らしの しあわせ）をわかりやすくPRする。地域福祉の取り組みを周知する。
- あいさつ（おかえり）運動を広める。
- 少しのおせっかいでできる関係づくりを目指す。
- 外出ができない人への声かけをする。
- 集まりやすい居場所をつくる。

中央地区



データ・アンケートからみる状況

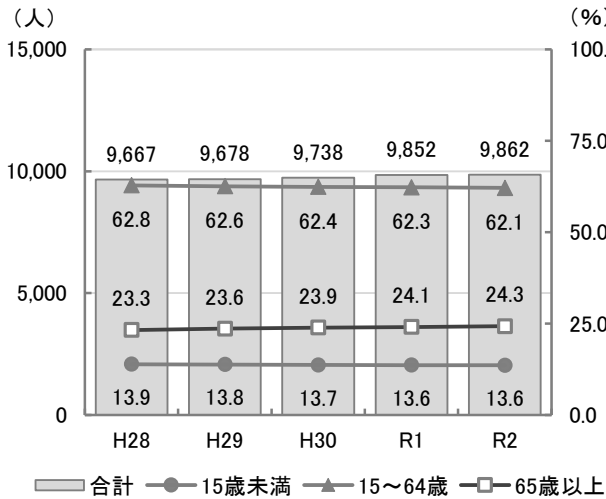
中央地区の総人口は年々増加しており、令和2年度に9,862人となっています。

他の地区と比較すると、総人口は棚尾地区、西端地区に次いで少なく、高齢化率は市全体よりやや高くなっています。

近所付き合いの程度は、市全体と比較して「困ったときにお互いに助け合える程度」「立ち話をする程度」が高くなっています。

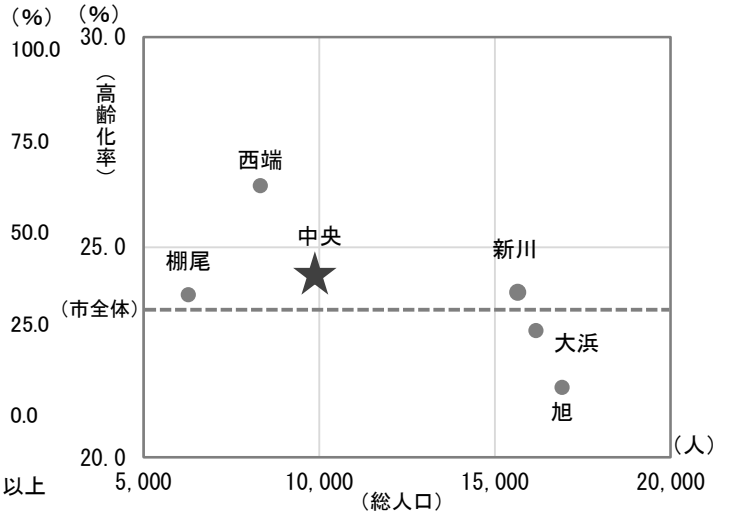
支え合う地域づくりのため地域ですべきことは「近所の住民同士の普段からのつきあい」が最も高くなっています。市全体と比較すると、「祭りやイベントなどをおとした住民同士の交流」が高くなっています。

■総人口・年齢3区分別人口割合の推移



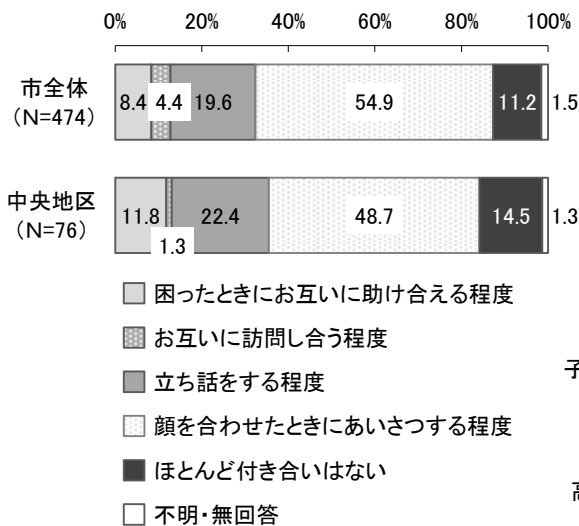
資料：市民課（各年度4月1日）

■他の地区との総人口・高齢化率の比較

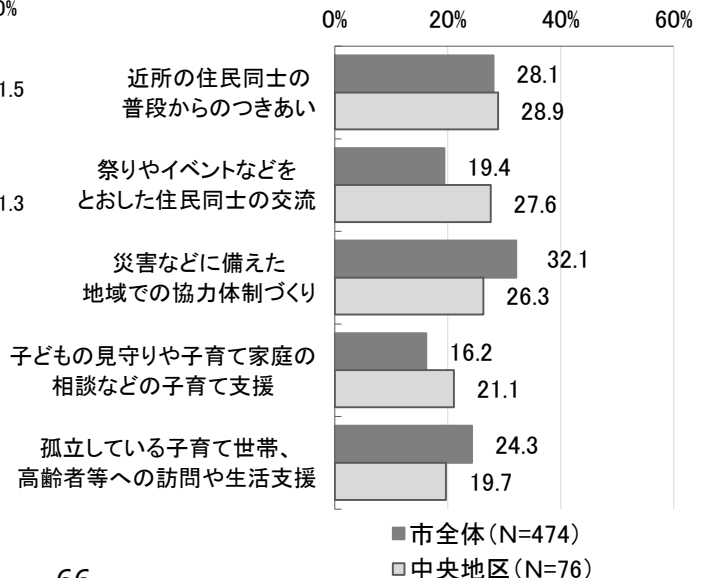


資料：市民課（令和2年4月1日）

■近所付き合いの程度



■支え合う地域づくりのため地域ですべきこと (中央地区上位5位)



これまでの地区での活動と地域福祉推進会議での主な意見

これまで“地域のつながりづくり”として〔中央幼稚園と中山再青会の七夕祖父母会〕や〔天道保育園で園児や道寿会、地域の方とさつまいも作り〕等の世代間交流を行ってきました。また、地域福祉推進会議をきっかけに“道場山福祉の会”という住民主体の福祉活動を推進する団体もできました。



地域福祉推進会議では、住民同士のつながりの希薄さや災害時に支え合える地域づくりの必要性について意見が出ました。

重点目標と今後の取り組み案

重点目標

地域のつながりづくり

新たに中央地区に移住してきた人や子育て世代、子どもなどとのつながりが薄くなっています。積極的な働きかけや、楽しんで参加できることなどを発信し、地域と関わるきっかけをつくります。

重点目標

災害時に支え合える地域づくり

誰もが必要性を感じる防災をきっかけとし、防災訓練や、災害が起こった時の具体的な取り組みについて話し合うことで、地域で助け合える関係をつくっていきます。

＼ こんなことをやっていきます！ ／

- 町内会や地域福祉活動団体等（“道場山福祉の会”等）の活動の周知や加入することのメリット等を発信しながら地域とつながるきっかけをつくっていく。
- 子どもがのびのび遊べる場を通じて、地域と交流できる機会をつくる。
- 地域住民や地域の団体で、防災について話し合う機会を設ける。
- 関心がある人が多い防災活動などを活かし、楽しみながら交流が進む企画を行う。

大 浜 地 区

データ・アンケートからみる状況

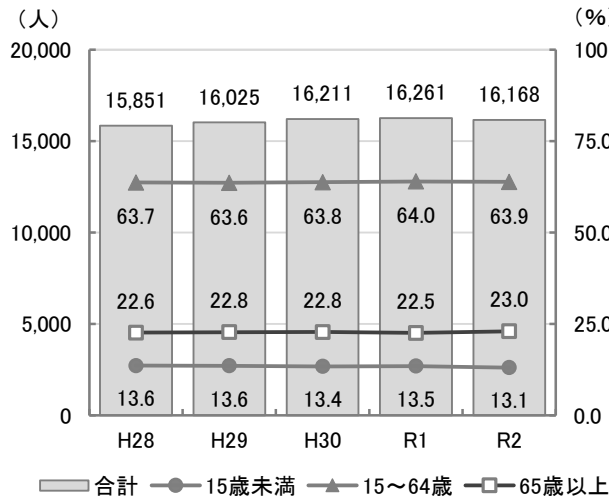
大浜地区の総人口は令和元年度までは増加していましたが、令和2年度では減少に転じ、16,168人となっています。

他の地区と比較すると、総人口は旭地区に次いで多く、高齢化率は市全体よりやや低くなっています。

近所付き合いの程度は、市全体と比較して「顔を合わせたときにあいさつする程度」が高くなっています。

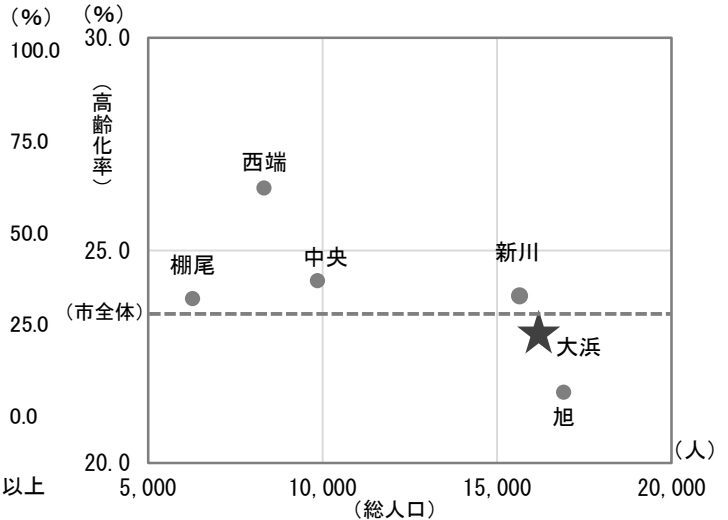
支え合う地域づくりのため地域ですべきことは「災害などに備えた地域での協力体制づくり」が最も高くなっています。

■総人口・年齢3区分別人口割合の推移



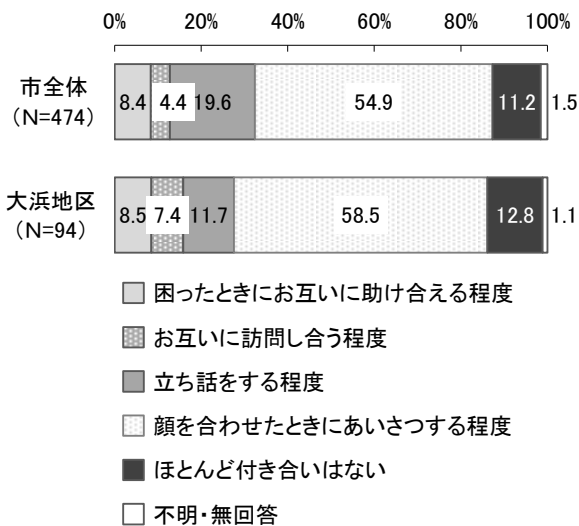
資料：市民課（各年度4月1日）

■他の地区との総人口・高齢化率の比較

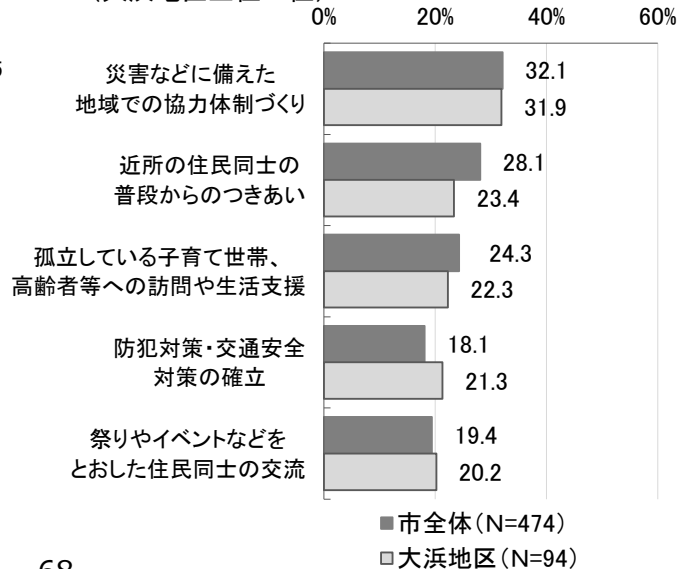


資料：市民課（令和2年4月1日）

■近所付き合いの程度



■支え合う地域づくりのため地域ですべきこと（大浜地区上位5位）



これまでの地区での活動と地域福祉推進会議での主な意見

地域住民が一体となり“見守り・見守られる地域づくり”の一環で、かしの木保育園にて「お気軽相談サロン」を実施しました。園児と地域の方が一緒に紙ひこうきを作り、飛ばす企画により、世代間の交流ができ、みなさんが笑顔いっぱいの時間を過ごしました。

地域福祉推進会議では、まだまだ世代間のつながりが少ないとの意見や、沿岸部の地域であることから、災害時への備えについての意見も多く出ました。



重点目標と今後の取り組み案

重点目標 世代を超えたつながり・助け合いを進める

若い世代をはじめ、各世代が求めているニーズを把握し、ちょっとした手伝いを世代を超えて行うことで、生活のゆとりをうむとともに、地域のつながりをつくるきっかけとしていきます。

重点目標 自ら避難できない人への災害時支援

災害時に自力での避難が困難な人を助けられるよう、楽しんで参加できる活動や、実際の災害を想定した訓練などに取り組んでいく必要があります。

＼ こんなことをやっていきます！ ／

- 親が買い物をするときなどに、地域住民が子どもを見守るなど、ちょっとした困りごとへの支援を行う。
- 散歩中に子どもの見守りをするなど、日常生活の中で助け合い、顔の見える関係をつくる。
- 誰もが気軽に楽しみながら防災に取り組めるウォーキングイベントやクイズラリーなどを実施する。
- 災害時の支援などについて、継続的な活動や検討を行っていく。

棚尾地区



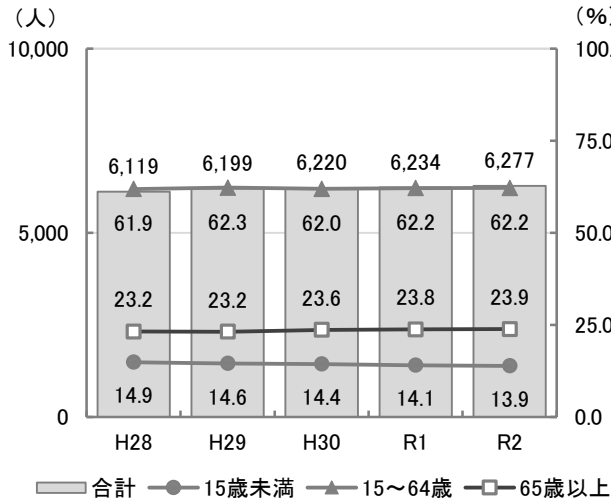
データ・アンケートからみる状況

棚尾地区の総人口は年々増加しており、令和2年度に6,277人となっています。他の地区と比較すると、総人口は6地区で最も少なく、高齢化率は市全体よりやや高くなっています。

近所付き合いの程度は、市全体と比較して「顔を合わせたときにあいさつする程度」が高くなっています。

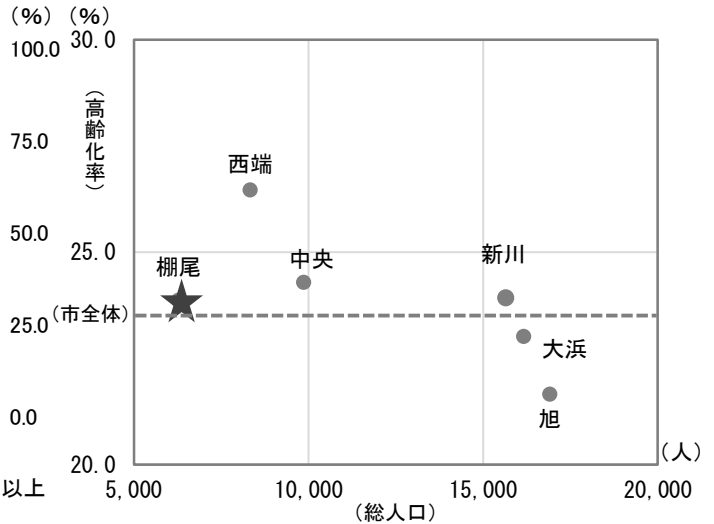
支え合う地域づくりのため地域ですべきことは「災害などに備えた地域での協力体制づくり」が最も高く、市全体と比較しても高くなっています。

■総人口・年齢3区分別人口割合の推移



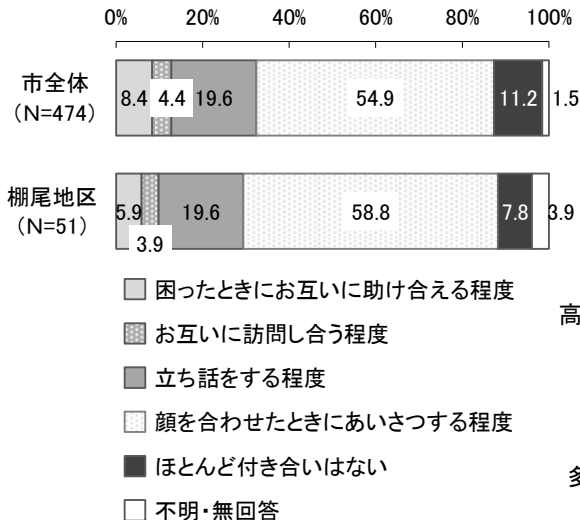
資料：市民課（各年度4月1日）

■他の地区との総人口・高齢化率の比較

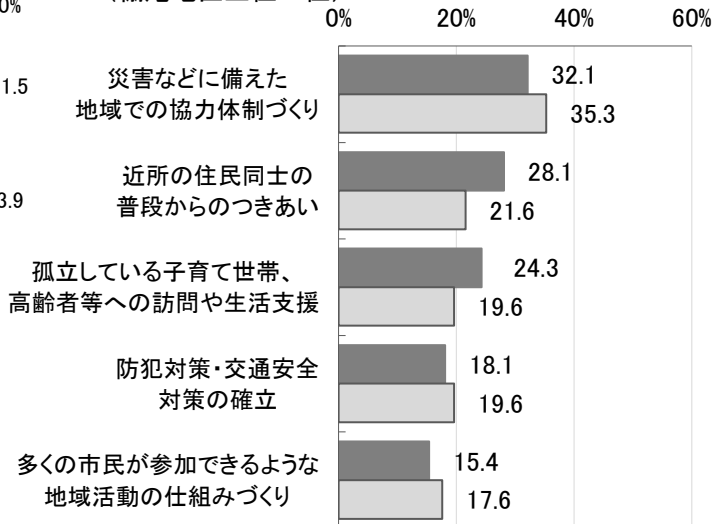


資料：市民課（令和2年4月1日）

■近所付き合いの程度



■支え合う地域づくりのため地域ですべきこと (棚尾地区上位5位)



■市全体(N=474)

□棚尾地区(N=51)

これまでの地区での活動と地域福祉推進会議での主な意見

“棚尾まちおこしの会”の活動の中で、高齢者声掛け訓練を実施したり、自主防災訓練では、高齢者や障害者が実際に参加し、避難所生活などを考えるきっかけになっています。

地域福祉推進会議では、日ごろの関係づくりや地域への関心を高めるにはどうしたらいいかなどの意見が出ました。



重点目標と今後の取り組み案

重点目標

地域のつながりや関係性の希薄さと担い手不足の解消

地域のつながりを良くし、担い手のすそ野を広げていきます。地区行事やイベントなどについて、意欲がある人の活躍を支援し、地域の他の団体と協力を進めることで、ちょうど良い力加減で実施できるようにしていきます。

重点目標

情報発信力アップ！！

地域活動をより多くの人に知ってもらうために情報を発信し、団体同士の情報共有を進めることで、地域への関心を高めていきます。

重点目標

災害時に助け合える地域づくり

大規模地震時の津波に備え、津波から逃げ、避難した先での生活を考える必要があります。高齢者や障害者を含め、より多くの住民が参加できる方法について検討し、防災意識の向上や地域の防災体制を強化することが求められます。

＼ こんなことをやっていきます！ ／

- “棚尾まちおこしの会”の活動や意義について発信する。
- “棚尾まちおこしの会”を地域の課題などをみんなで考える場としていく。
- 地域の団体同士で協力するなど、各団体の負担を減らしながらちょうど良い加減で、それぞれの団体の活動が継続できる方法を検討していく。
- 地区行事やイベントなどを活用し、楽しい経験、リアルな体験をすることで、地域への関心を高めるきっかけをつくる。
- 高齢者や障害者を含め、より多くの住民が避難訓練に参加し、みんなが身近なことや自分ごととして考えられるようにしていく。

旭 地 区

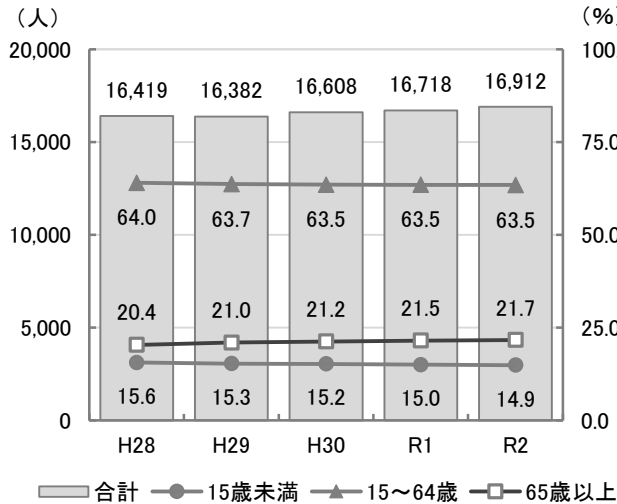
データ・アンケートからみる状況

旭地区の総人口は平成29年度以降増加しており、令和2年度には16,912人となっています。

他の地区と比較すると、総人口は6地区で最も多く、高齢化率は最も低くなっています。近所付き合いの程度は、市全体と比較して「顔を合わせたときにあいさつする程度」が高くなっています。

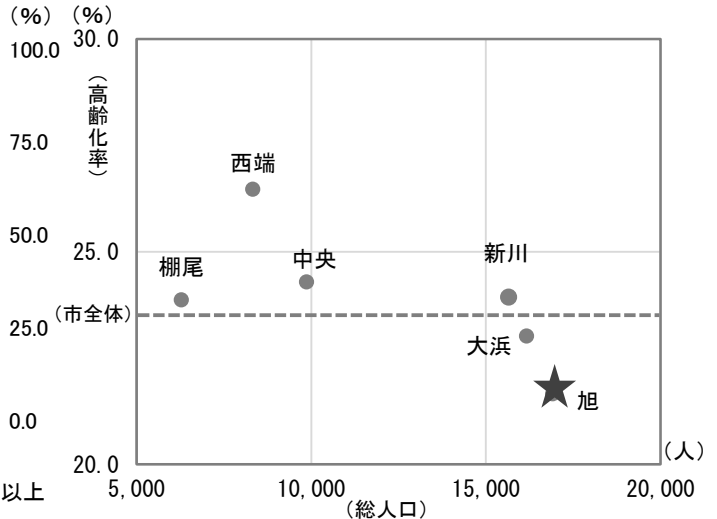
支え合う地域づくりのため地域ですべきことは「災害などに備えた地域での協力体制づくり」が最も高く、市全体と比較しても高くなっています。

■総人口・年齢3区分別人口割合の推移



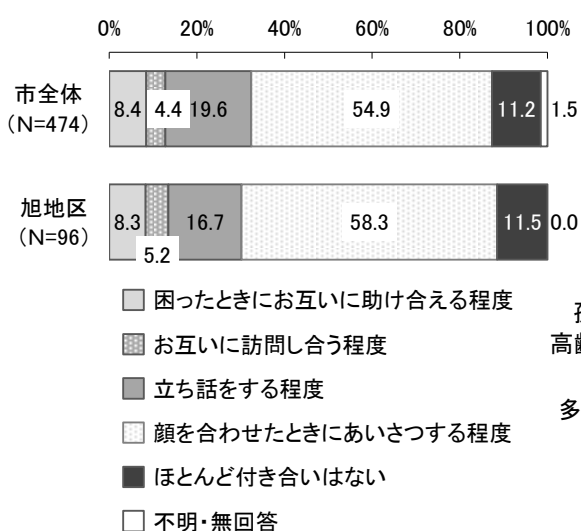
資料：市民課（各年度4月1日）

■他の地区との総人口・高齢化率の比較

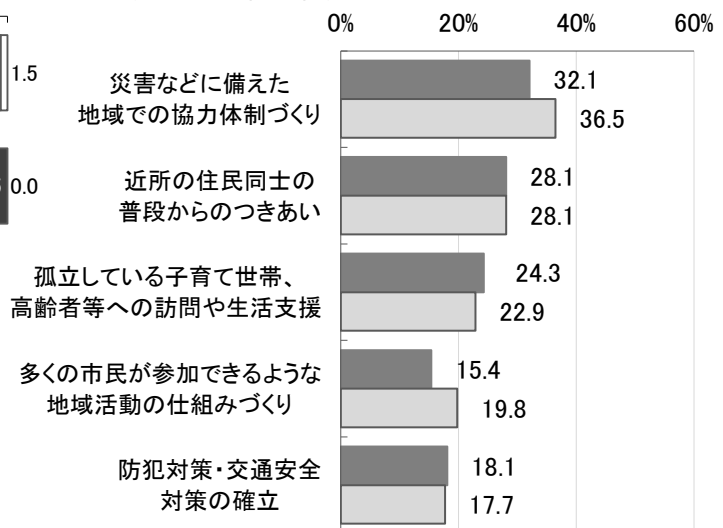


資料：市民課（令和2年4月1日）

■近所付き合いの程度



■支え合う地域づくりのため地域ですべきこと (旭地区上位5位)



■市全体 (N=474)
□旭地区 (N=96)

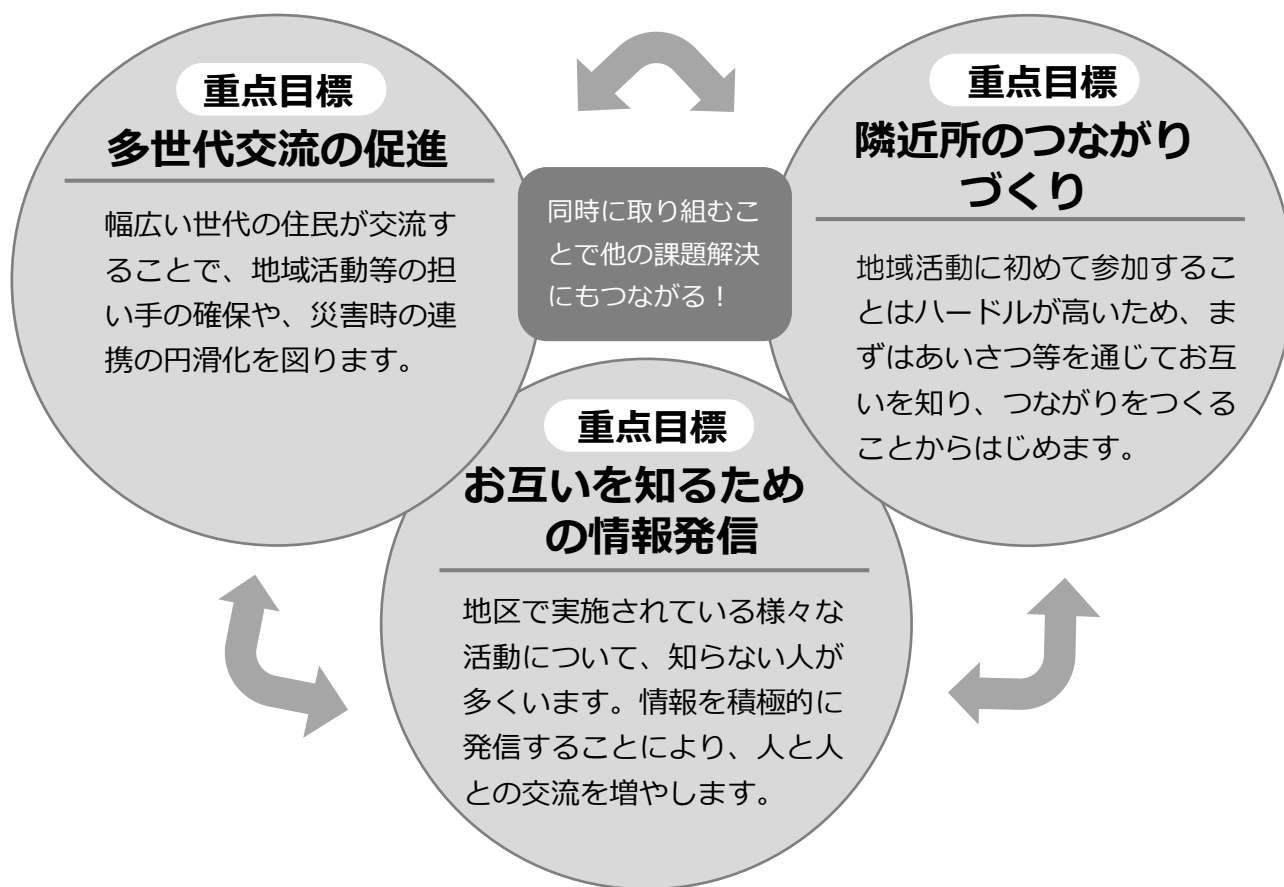
これまでの地区での活動と地域福祉推進会議での主な意見

“多世代交流”について定期的に検討を重ね、夏休みに開催されるラジオ体操で「大人と子どもでじゃんけん」を行い、多世代の交流が図られました。また、話し合いを通じた情報交換等により、少しずつ地域のつながりが広がっています。

地域福祉推進会議では、多世代交流を継続することや交流促進のための情報発信の必要性について意見が出ました。



重点目標と今後の取り組み案



＼ こんなことをやっていきます！ ／

- 6年後のゴールを決めて、ステップアップできる取り組みを1年1年掲げる。その成果を1年ごとにフィードバックする。
- 地域の既存の活動のつながりを生かし、活動内容等の情報共有や組み合わせることにより、新たな交流をつくっていく。
- 様々な人や団体が集まり、誰が来てもいい、相談や情報交換等が気軽にできる場をつくっていく。
- 地域活動への参加を促すため、チラシの配布や直接声をかける等、継続的な働きかけを行う。

西端地区



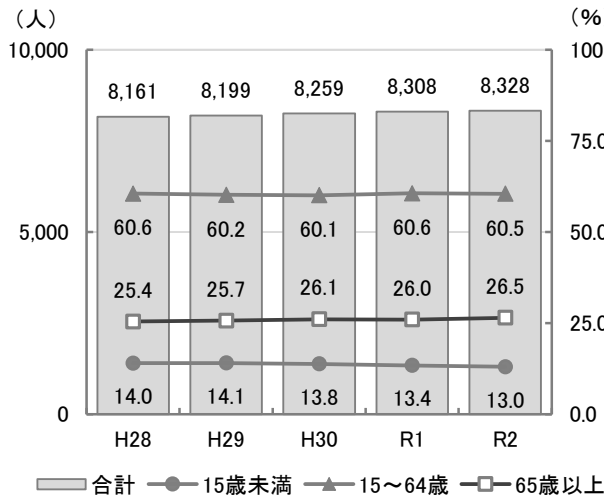
データ・アンケートからみる状況

西端地区の総人口は年々増加しており、令和2年度に8,328人となっています。他の地区と比較すると、総人口は棚尾地区に次いで少なく、高齢化率は6地区で最も高くなっています。

近所付き合いの程度は、市全体と比較して「顔を合わせたときにあいさつする程度」「立ち話をする程度」が高くなっています。

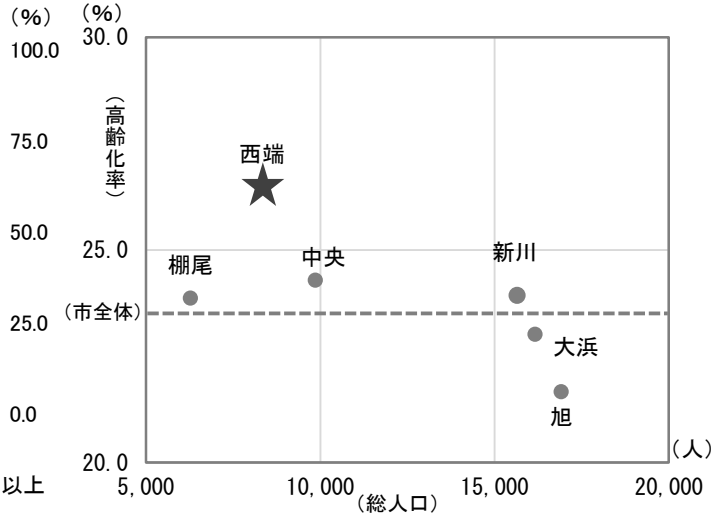
支え合う地域づくりのため地域ですべきことは「災害などに備えた地域での協力体制づくり」が最も高く、市全体と比較しても高くなっています。

■総人口・年齢3区分別人口割合の推移



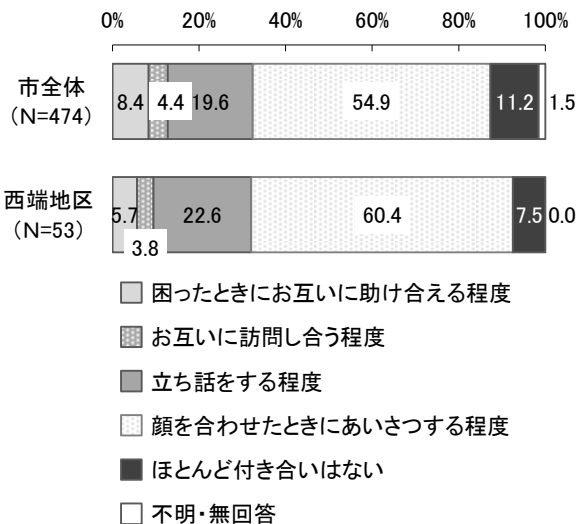
資料：市民課（各年度4月1日）

■他の地区との総人口・高齢化率の比較

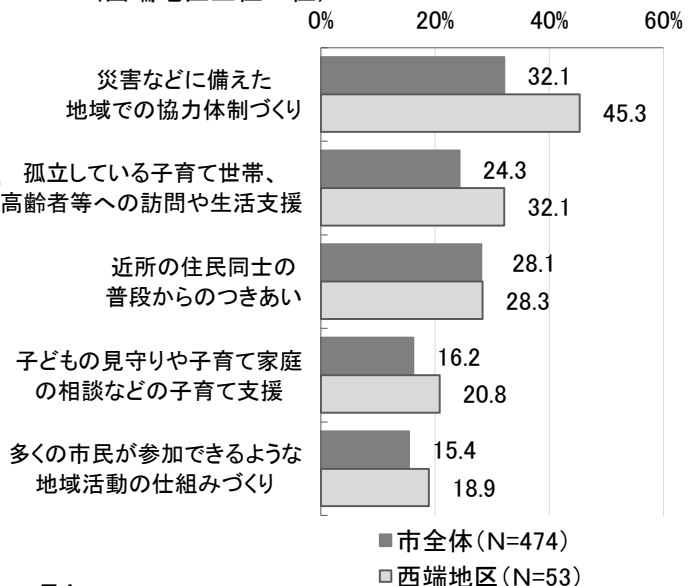


資料：市民課（令和2年4月1日）

■近所付き合いの程度



■支え合う地域づくりのため地域ですべきこと (西端地区上位5位)



これまでの地区での活動と地域福祉推進会議での主な意見

“地域での交流の場”の充実のため、“西端ふくし応援団”を中心に [cafe ちゃのま] が開催され、また [地域での見守り検討会] から“西端ふくし見守り隊”の活動につながっています。

地域福祉推進会議では、地域のつながりの大切さについて、日頃の趣味の活動や既にある取り組みを活かすこと、また、地域で関心の高い防災活動を通じて多くの人とつながることで、地域の見守りや助け合いにつながるとの意見が出ました。



重点目標と今後の取り組み案

重点目標 地域や住民を互いに知り、つながりをつくろう

住民同士が知り合い、会話ができるようになることで、困りごとを抱えた人を把握したり、支援につなげることができます。「困った」と言える日ごろの関係ができることで災害時にも助け合える地域づくりを目指します。つながりが広がり、まちを知ること、地域への愛着も育んでいきます。

重点目標 無理せず楽しめる活動が続けよう

クラブ活動や趣味活動、防災活動、茶話会など、参加しやすい活動、楽しい活動を通じて知り合いを増やしていくことで、“やらされ感”なく地域の活動を継続していきます。

＼ こんなことをやっていきます！ ／

- ざっくばらんな井戸端会議やゴミ回収の立ち当番、清掃活動など、負担にならない形で顔なじみの関係をつくっていく。
- 何気ない日ごろのやりとりをする中で、支援が必要な人を見つけたり、見守りをしていく。
- 日ごろのつながりによって、災害時も手助けできる関係をつくる。
- cafe ちゃのま、再青会といった活動を活かしながら、個人や団体を巻き込んだり、企業との協力も進めていく。
- 楽しい活動を通じて、地域のつながりをつくる。
- 防災活動などを活かし、地域活動に欠かせない男性の参加を促していく。また、老若男女、外国籍の方など多くの方が地域のことに気づけるきっかけをつくる。